

新聞記事にみる妙正寺川の歴史的変遷

小澤 広直

正会員 早稲田大学助手 創造理工学部社会環境工学科 (〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1)

E-mail: hironaokozawa@aoni.waseda.jp

妙正寺川は、東京都杉並区にある妙正寺池を水源として、中野区を経て、新宿区にて神田川と合流する、延長 9.7km の荒川水系の都市河川である。戦後の巨大台風や集中豪雨により大規模な水害が発生し、激特事業をはじめとした河川空間整備が行われた一方で、現在の新宿区景観形成ガイドラインでは、妙正寺川の河川景観を軸とした「水とみどりを活かした潤いと広がりのあるまちなみ」を目指すなど、今後の都市の水辺空間再生やかわまちづくりの参考となる事例であると考えられる。

本稿では、妙正寺川に関する新聞記事を抽出・分析し、妙正寺川における河川空間整備や人々の川への関心・関与に関する歴史的変遷を明らかにすることを目的とする。その結果、1960 年代以降の度重なる水害とその後の河川改修の取り組み、2010 年代以降のかつての地場産業である染物に焦点をあてた取り組みなど、妙正寺川における水に関わる代表的な事象とその特徴を明らかにした。

Key Words: *Myoshojigawa River, Newspaper Articles, Historical Transition, Urban River, Civil Engineering History after World War II*

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

2021 (令和 3) 年 3 月、国土交通省は、全国 109 の一級水系を中心とした「流域治水プロジェクト」として、河川管理者主体の河川整備のみならず、氾濫域も含めた対象河川の流域全体での様々な主体の協働による災害軽減のための治水対策を策定した¹⁾。関連する学術・研究分野においても、流域治水プロジェクトの計画・実践に向けた検討²⁾に加え、水システムと社会の相互作用を解明する「社会水文学」³⁾や、河川管理と地域再生の連携に向けた計画概念である「河川文化アプローチ」⁴⁾などへの関心が高まっているとともに、流域治水、かわまちづくり、多自然川づくりをはじめとした日本の河川施策の一体的な推進の重要性や期待を説いている。

そのような中、本稿では、東京都の都市河川の一つである妙正寺川に着目する。妙正寺川は、東京都杉並区にある妙正寺池を水源として、中野区を経て、新宿区にて神田川と合流する、全長 9.7km の荒川水系の都市河川である (図-1)。妙正寺川では、戦後の巨大台風や集中豪雨により大規模な水害が発生し、激特事業をはじめとした河川空間整備が行われ、現在も「荒川水系流域治水プロジェクト」の一環で、河道拡幅・掘削、調節池建設などが予定されている。また、現在の新宿区景観形成ガイ

ドラインでは、妙正寺川の河川景観を軸とした「水とみどりを活かした潤いと広がりのあるまちなみ」を目指すなど、今後の都市の水辺空間再生やかわまちづくりの参考となる事例であると考えられる。

一方で、妙正寺川における水と人々の関わりは必ずしも明らかになっておらず、それらを明らかにすることは、荒川水系での流域治水を進めていくうえで、流域の特徴・歴史を把握するための重要な知見となりうる。

以上を踏まえ、本稿では、妙正寺川に関する新聞記事を抽出・分析し、妙正寺川における河川空間整備や人々の川への関心・関与に関する歴史的変遷を明らかにすることを目的とする。



図-1 妙正寺川の水源地 妙正寺池
(杉並区立妙正寺公園内, 2023 年 8 月筆者撮影)

(2) 既往研究の整理と本研究の位置付け

関連する主な既往研究について、以下に整理する。

a) 妙正寺川流域を対象とした研究

妙正寺川流域を対象とした研究として、水工学分野では、2005（平成 17）年集中豪雨による妙正寺川の浸水・氾濫に関わる数値解析^{5),6)}がなされている。都市計画分野では、都市部の地下調節池事業における事業プロセスと地域住民の反応を分析した研究⁷⁾、市街地における遊水池空間の整備パターンや利用方法を明らかにした研究^{8),9)}、住宅地や公園緑地など流域内の土地利用・景観や関連する政策に着目した研究^{10),11),12)}がある。

b) 都市計画分野における新聞記事を用いた歴史的研究

都市計画分野における新聞記事を用いた歴史的研究について、対象別に列挙すると、「自然」や「景観」などの概念^{13),14)}、水への関心・水防意識^{15),16)}、津波避難行動¹⁷⁾、鉄道^{18),19)}、江戸城外濠・内濠^{20),21)}、広場・公園^{22),23)}、東京ウォーターフロント^{24),25)}などがある。いずれの研究においても、研究で設定した特定の期間・対象に対する新聞記事を収集し、時系列変化や時代区分の提示、話題の類型化、事象や変遷に対する考察を行っている。

本研究は、a)で示した妙正寺川流域を対象とし、b)で示した既往研究と同様に新聞記事を分析資料としているが、それらを用いて妙正寺川における河川空間整備や人々の川への関心・関与に関する歴史的変遷を明らかにする点に特徴がある。

2. 研究の対象と方法

(1) 研究の対象

前章で述べた通り、本研究の対象は、杉並区・中野区・新宿区の 3 区を流れる都市河川である妙正寺川（妙正寺川終点から神田川までの合流地点までの高田馬場分水路を含む）とする。表-1 に妙正寺川の基礎情報を示す。

(2) 研究の方法

まず初めに、次章で詳述する新聞各社の電子データベースを用いて、戦前から現在までの妙正寺川に関する新聞記事の抽出・収集とリスト化を行う。続いて、収集した新聞記事の内容により分類して、時系列変化や傾向を把握する。最後に、妙正寺川における水に関わる代表的な事象と各時代の特徴を明らかにする。

3. 妙正寺川に関する新聞記事の抽出と分類

(1) 対象記事

本稿で対象とする、妙正寺川に関する新聞記事については、読売・朝日・毎日・日本経済新聞の 4 社の電子データベースを用いて、「妙正寺川」によるキーワード検索を行った。その結果、4 社合計で 313 件の記事を抽出し、リストを作成した^{注 2)}。新聞各社の電子データベースでの検索概要と抽出記事数について、表-2 に示す。

表-1 妙正寺川の基礎情報^{注1)}

区名	杉並区	中野区	新宿区	豊島区	
河川名	妙正寺川		高田馬場分水路		
起終点	杉並区清水三丁目 ~ 新宿区下落合二丁目		新宿区上落合一丁目 ~ 豊島区高田三丁目		
延長 (m)	9700		1460		
幅員 (m)	15 ~ 19		14 ~ 22		
構造	堀込式・単断面式		暗渠式		
代表地点の様子 (筆者撮影)					
	妙正寺池	妙正寺川公園付近	中井駅付近	辰巳橋付近	高戸橋付近

表-2 新聞各社の電子データベースでの検索概要と抽出記事数

新聞社 (DB 名称)	検索概要	抽出記事数
読売新聞 (ヨミダス歴史館)	<ul style="list-style-type: none"> ■明治・大正・昭和 (1874-1989) : 記事ごとに登録されたキーワードを対象として、キーワード検索を実施 ■平成・令和 (1986-現在) : 見出し・記事本文を対象とする全文検索と、記事ごとのキーワードを対象とするキーワード検索の両方を実施 (重複するものは 1 記事として抽出) 	149
朝日新聞 (朝日新聞クロスサーチ)	<ul style="list-style-type: none"> ■縮刷版 (1879-1999) : 見出しとキーワードに対して、キーワード検索を実施 ■記事 (1985-現在, 朝日新聞と朝日新聞デジタルのみ) : 見出しと本文と補助キーワードに対して、キーワード検索を実施 	64
毎日新聞 (毎索)	<ul style="list-style-type: none"> ■毎日新聞 (1872-現在) : 見出しと本文に含まれる文字列に対して、キーワード検索を実施 	56
日本経済新聞 (日経テレコン 21)	<ul style="list-style-type: none"> ■日経各紙及び速報ニュース (全期間) : 見出し・本文・キーワード・分類語に対して、キーワード検索を実施 	44

(2) 記事内容による分類と時系列変化

a) 抽出記事のカテゴリ分類

抽出した313件の新聞記事について、内容を精読した上で、河川改修工事などの「治水・防災」、豪雨による浸水・氾濫などの「災害」、妙正寺川の水を利用した「生業」、沿川の生態系などの「環境」、周辺の名所紹介や公共空間整備などの「地域・公共空間」、妙正寺川で発生した「事件・事故」、市民活動などの「イベント」、上記に該当しない「その他」の8つのカテゴリに分類した(図-2)。

分類結果より、主に妙正寺川の水に関わる「治水・防災」「災害」「生業」の3つのカテゴリで全体の約6割を占めていることが把握できる。

b) 抽出記事の時系列変化

続いて、a)で示したカテゴリを適用した状態で、抽出記事の時系列変化を把握した。

まず記事数(図-3)については、戦前の1923(大正12)年及び1930年代後半に記事が見られたあと、戦中期から

戦後直後までは該当する記事が抽出されなかった。戦災復興期の1950年代から1970年代にかけては、「災害」の発生やそれに伴う「治水・防災」の記事が断片的に現れているが、1980年代以降現在までは毎年、複数の記事が掲載されていることが把握できた。

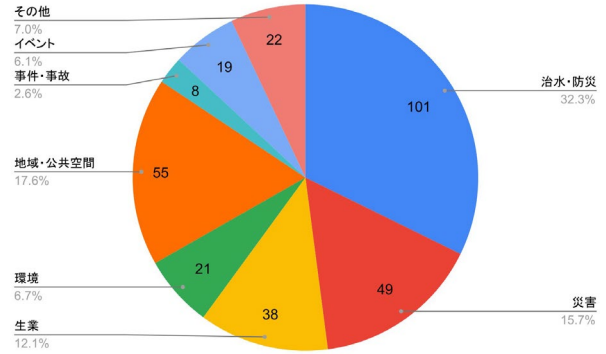


図-2 妙正寺川に関する新聞記事のカテゴリ分類 (円グラフ内の数字は該当記事数を示す)

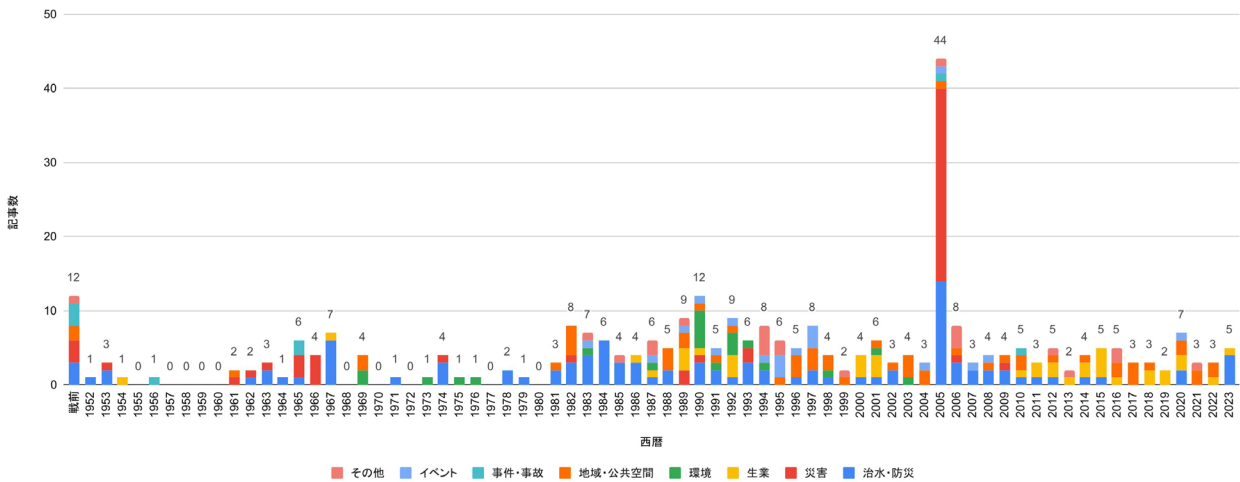


図-3 妙正寺川に関する新聞記事における記事数の時系列変化 (棒グラフ上の数字は各年の合計記事数を示す)

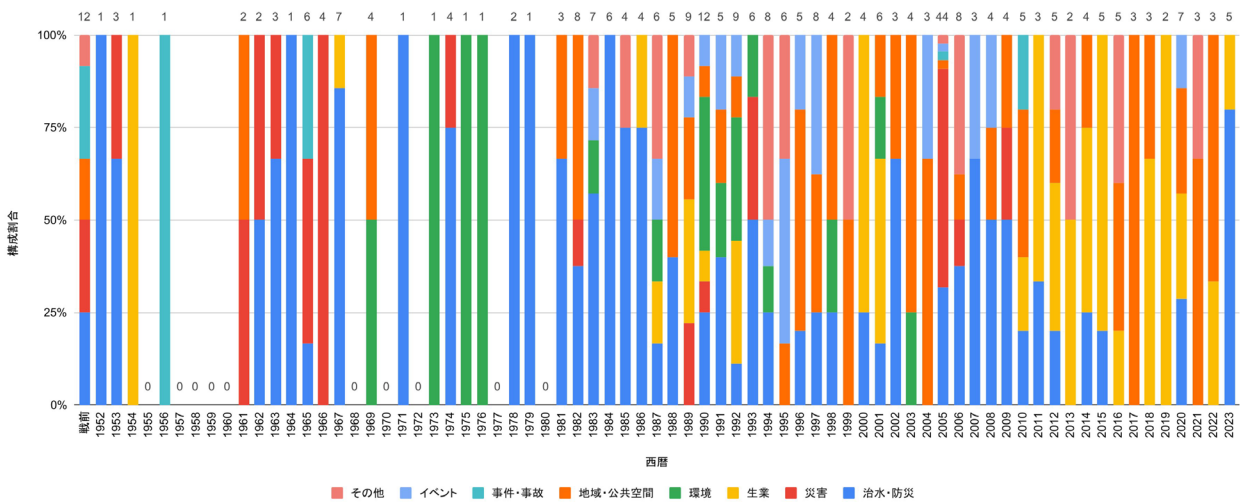


図-4 妙正寺川に関する新聞記事における構成割合の時系列変化 (棒グラフ上の数字は各年の合計記事数を示す)

続いて、各年の記事の構成割合（図-4）を見ると、「治水・防災」に関する記事はほぼ通時的に現れていることが把握できた。また、1970年代は「環境」、2010年代以降は「生業」「地域・公共空間」に該当する記事の割合が増加していることが把握できた。

4. 妙正寺川の水に関わる代表的な事象と特徴

前章において、妙正寺川に関する新聞記事の抽出と、記事内容によるカテゴリーの分類および時系列変化の把握を行った。

本章では、それらの結果を踏まえて、各時代における妙正寺川の水に関わる代表的な事象と特徴を述べる。

(1) 戦前期（1923年及び1930年代後半）

戦前の代表的な事象は、1937（昭和12）年4月29日に発生した河川改修工事中の地盤崩落事故である^{注3}。妙正寺川河川改修工事のため、上落合付近の川底にて作業中に、軟弱地盤が崩落し、死傷者5名を出す大事故が発生した。

(2) 1950年代

1950年代の代表的な事象としては、中野区での治水対策事業である。一つは西武線沼袋駅を中心とする一帯の排水のための暗渠138mの建設工事^{注4}であり、もう一つは妙正寺川の支流である江古田川の護岸改修工事^{注5}である。ただし、記事数が少なく、掲載規模も小さかったため、詳細は把握できなかった。

(3) 1960年代

1960年代は、毎年のように浸水・氾濫被害が発生しており、新聞記事からも被害と対策を繰り返している様子が読み取れる。なかなか進まない河川改修工事に対し、地域住民が行政へ幾度も陳情や不満を述べていることや区議会が現地視察を行っていること^{注6}が把握できる。

またその中でも特に大きな被害であったのは、1966（昭和41）年6月28日の台風4号による被害^{注7}で、ゼロメートル地帯の江東区から山手、三多摩地区に至るまでの広範囲に及んだ。妙正寺川流域では、西武新宿線鷺宮駅付近、若宮三丁目、白鷺三丁目などで浸水被害や交通網遮断が発生した。

(4) 1970年代

1970年代は、1960年代の度重なる水害と河川改修の繰り返しを踏まえ、新宿区議会から国や都への神田川や妙正寺川の抜本的な治水対策の促進の申し入れ^{注8}や、地域住民による都・区の河川行政への追及^{注9}などが行わ

れている。

(5) 1980年代

1980年代の代表的な事象として、河川事業・公園事業・住宅事業が一体となって、集合住宅と調整池の重ね合わせによる水防対策が行われた「妙正寺川公園・妙正寺川第一調節池・哲学堂公園ハイツ」の建設事業が挙げられる^{注10}。

新宿区西落合と中野区松が丘にまたがる、旧オリエント写真工業工場跡地に、多目的遊水地、公園、集合住宅の機能を兼ね備えた施設の建設計画が立ち上がった。河川区域である調節池内に日本で初めて集合住宅が建設されるという、非常に稀な事例であった^{注11}。

(6) 1990年代～2000年代

この時代の代表的な事象として、2005年集中豪雨による浸水・氾濫被害とその後の「妙正寺川・善福寺川河川激甚災害対策特別緊急事業」が挙げられる。

2005（平成17）年8月15日夜と9月4日夜の直近2度に渡り、集中豪雨が発生した。特に9月4日の集中豪雨では、都内で3000軒の浸水被害と、妙正寺川・善福寺川・神田川・石神井川の4河川の氾濫・溢水があり、妙正寺川の北原橋付近では護岸が崩れるなどの大きな被害が出た^{注12}。その結果、「妙正寺川・善福寺川河川激甚災害対策特別緊急事業」として採択され、5カ年・約145億円の事業が実施された^{注13}。

(7) 2010年代以降

2010年代以降の代表的な事象の一つは、かつての地場産業である染色産業をより身近に感じてほしいとの地域住民の願いで、2011（平成23）年から始まった「染の小道」というイベントが挙げられる。毎年2月頃に中井駅周辺を中心に、染色した布地を妙正寺川の上へ飾る、現役の染色作家が作ったのれんなどを沿川の店舗前に展示する、などの活動が行われている^{注14,15}。

もう一つは、現在建設が進められている治水事業の一つである「環状七号線地下広域調節池」工事である^{注16,17}。この事業は、神田川流域の河川洪水を貯留するための大規模な調節池整備工事である。妙正寺川に対しては、野方地区において、整備済の「神田川・環状七号線地下調節池」との連結工事（2026（令和8）年完成予定）が行われている。

5. 結論

本稿では、妙正寺川における河川空間整備や人々の川への関心・関与に関する歴史的変遷を明らかにすること

を目的として、妙正寺川に関する新聞記事を抽出・分析し、その結果、1960年代以降の度重なる水害とその後の河川改修にかかわる行政への陳情と不満、2010年代以降のかつての地場産業である染物に焦点をあてた取り組みなど、妙正寺川における水に関わる代表的な事象とその特徴を明らかにした。

今後の研究の展望として、これらの水に関わる事象の具体的な発生場所など地理的・空間的分析や、現在も続く染色産業に関するヒアリング調査を行うことで、「地域水系基盤」^{注18)}としての妙正寺川の特徴を明らかにしていきたい。

謝辞：本稿は、早稲田大学特定課題研究助成費「戦後日本のインフラ整備とまちづくりに関する歴史的研究」（課題番号：2023C-118，研究代表者：小澤広直）及び早稲田大学「学術論文に係る補助制度」による助成を受けたものである。記して感謝申し上げます。

NOTES

- 注1) 新宿区：新宿区都市計画施設等概要（令和3年3月末現在），2021。
- 注2) 抽出した新聞記事のリストは、筆者のウェブサイト (<https://hironaokozawa.theblog.me/pages/4666160/research>) にて閲覧可能である。
- 注3) 朝日新聞 1937年4月30日「死傷者5名 護岸工事の岩盤落下」及び読売新聞 1937年4月30日「無残・7名生理め 妙正寺川改修に川底で作業中 土砂崩壊・2名即死」
- 注4) 読売新聞 1952年1月23日「沼袋・水の心配無用 暗渠 138メートルが3月中に完成」
- 注5) 読売新聞 1953年1月22日「宮園の溝工事など 中野区土木課で近く着工」
- 注6) 朝日新聞 1965年9月4日「あふれ通しの妙正寺川都政もの申す」、毎日新聞 1967年5月17日「東京都：へんな改修、妙正寺川—地元民から疑惑の声」、毎日新聞 1967年6月10日「東京都 区議会・市議会：問題多い妙正寺川の改修—中野区議ら視察」など
- 注7) 読売新聞 1966年6月29日「またあふれた中小河川 台風4号 妙正寺川」及び同日「都内、浸水 10万3000戸 山の手0メートル地帯に被害／台風4号」
- 注8) 読売新聞 1974年8月2日「神田川と妙正寺川の治水対策促進を 新宿区議会意見書」
- 注9) 読売新聞 1978年5月4日「困る！“水もれ行政” 水害の住民、都を追及」
- 注10) 朝日新聞 1984年3月24日「“暴れ川” 引き受けた「遊水池団地」近く着工 1階を高床式に 妙正寺川」など
- 注11) 東京都建設局河川部改修課：東京都における都市河川対策 妙正寺川多目的遊水地，河川，No.455，pp.15-20，1984。
- 注12) 読売新聞 2005年9月5日「首都圏豪雨 下水管から逆流で被害 雨水専用管整備遅れ」など
- 注13) 東京都建設局：妙正寺川・善福寺川河川激甚災害対策特別緊急事業（2023年10月12日最終閲覧）
URL：

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/river/information/gekitoku/gekitoku.html>

- 注14) 「染の小道」実行委員会：染の小道ウェブサイト，URL：<https://www.somenokomichi.com/>（2023年10月12日最終閲覧）
- 注15) 朝日新聞 2010年12月8日「更紗・友禅…川の流れるように 新宿の落合・中井でイベント 染め物の街PR」など
- 注16) 環状七号線地下広域調節池（石神井川区間）工事：<http://kanzyou7.com/>（2023年10月12日最終閲覧）
- 注17) 読売新聞 2020年2月6日「環7地下の調節池 拡大中！25年度完成 全長13キロ 国内最大に」など
- 注18) 地域水系基盤（Community-based Water Infrastructure）とは、JSPS 科学研究費 22H03894「地域水系基盤概念に基づいた水インフラとともにある暮らしの再生デザイン手法の開発」（研究代表者：佐々木葉）により提示された、地域社会に密着した水インフラの利用・管理と施設の状態を一体的に捉えるインフラ概念のことである。詳細は、早稲田大学景観・デザイン（佐々木葉）研究室ウェブサイトの当該ページ (<https://www.yohlab.sci.waseda.ac.jp/cbwi/>) を参照されたい。

REFERENCES

- 国土交通省：流域治水プロジェクト，URL：https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/index.html（2023年10月12日最終閲覧）
- 石川忠晴：江戸時代の治水思想が流域治水プロジェクトの計画と実践に与えるヒントについて，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.78，No.6，pp.II_509-II_521，2022。
- 中村晋一郎，木村匡臣，乃田啓吾，渡部哲史，西原是良：社会水文学—その日本での展開に向けて—，水文・水資源学会誌，Vol.33，No.5，pp.203-211，2020。
- 五三裕太，福島秀哉：河川管理と地域再生の連携に向けた「河川文化アプローチ」に関する研究レビュー，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.78，No.6，pp.II_556-II_573，2022。
- 関根正人，風間大彰，青野雅士：2005年集中豪雨により発生した妙正寺川流域の氾濫被害に関わる数値解析，水工学論文集，Vol.53，pp.811-816，2009。
- 関根正人：住宅密集地域を抱える東京都心部を対象とした集中豪雨による内水氾濫に関する数値解析，土木学会論文集 B1（水工学），Vol.67，No.2，pp.70-85，2011。
- 関口佳司：都市部における地下利用施設建設事業と地域住民の反応，都市計画論文集，Vol.31，pp.157-162，1996。
- 角田裕紀，横内憲久，岡田智秀，小此木貴志：市街地における「遊水池空間」のあり方に関する研究—遊水池の整備パターンと平常時利用に着目して—，日本大学理工学部学術講演会論文集，Vol.57，pp.409-410，2013。
- 角田裕紀，横内憲久，岡田智秀，押田佳子：市街地における「遊水池空間」のあり方に関する研究—遊水池の整備形態と平常時利用の実態について—，2014年度日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿），都市計画部門，pp.659-660，2014。

- 10) 山口太郎：戦前期に開発された郊外住宅地の景観の類型化－新宿区中井地区を事例として－，地理学評論，Vol.80，No.9，pp.525 - 540，2007.
- 11) 神田道男：大都市圏における住宅地形成と住宅地景観－東京都妙正寺川流域を事例として－，地球環境研究，Vol.18，pp.123-132，2016.
- 12) 竹内智子，石川幹子：神田川上流域における公園緑地施策の変遷に関する研究，都市計画論文集，Vol.42，No.3，pp.7-12，2007.
- 13) 上月康則，遠山登，村上仁士：新聞記事からみた日本人の「自然」観の変化過程に関する考察，環境システム研究，Vol.26，pp.549-556，1998.
- 14) 相澤航平，福井恒明：新聞・雑誌記事における景観概念の変遷に関する文体論的研究，景観・デザイン研究講演集，No.16，pp.419-423，2020.
- 15) 加藤佑朋，中村晋一郎：日本における水への関心の分類と時系列変化，土木計画学研究・講演集，Vol.62，論文番号 12-01，2020.
- 16) 今井優希，秋田典子：日本における水防意識の変容新聞社説のテキストマイニング解析を通して，景観・デザイン研究講演集，No.16，pp.439-445，2020.
- 17) 大野沙知子，高木朗義：新聞記事を用いた東日本大震災における津波避難行動に関する考察，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.69，No.5，pp.I_75-I_89，2013.
- 18) 小野泰，水澤孝宏，岩倉成志：東京圏都市鉄道の計画整備期間に対する世論の影響，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.68，No.5，pp.I_1061-I_1070，2012.
- 19) 小野泰，岩倉成志：社会資本の計画・整備期間と世論の因果分析－東京圏都市鉄道・高規格堤防を対象に－，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.71，No.5，pp.I_269-I_280，2015.
- 20) 渡邊翔太，福井恒明：明治・大正・昭和期の新聞記事にみる江戸城外濠・内濠，景観・デザイン研究講演集，No.11，pp.22-26，2015.
- 21) 渡邊翔太，福井恒明：新聞記事にみる東京山の手河川と江戸城外濠，景観・デザイン研究講演集，No.12，pp.208-215，2016.
- 22) 堀川萌，荻原知子，福井恒明：明治以降の新聞記事に見られる広場等公共空間の変遷，景観・デザイン研究講演集，No.15，pp.380-389，2019.
- 23) 増田政弘，福井恒明：明治以降の近代化に伴う公共空間の変遷－上野公園に関する新聞記事の考察－，景観・デザイン研究講演集，No.16，pp.345-350，2020.
- 24) 菊池晃央，岡田智秀，田島洋輔：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究－明治期から大正期の空間形成と利用実態に着目して－，土木計画学研究・講演集，Vol.66，論文番号 10-01，2022.
- 25) 菊池晃央，岡田智秀，田島洋輔：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究－明治期から昭和戦後期までを対象として－，景観・デザイン研究講演集，No.18，pp.269-274，2022.

(Received October 13, 2023)

A STUDY ON HISTORICAL TRANSITION OF MYOSHOJIGAWA RIVER BASED ON NEWSPAPER ARTICLES

Hironao KOZAWA

This paper aims to clarify the historical transition of Myoshojigawa River in terms of river space improvement and people's interest and involvement with the river by the analysis based on newspaper articles. As a result, the repeated floods and subsequent river improvement efforts, as well as citizens' activities focusing on dyeing, a former local industry, etc., were identified as representative water-related events of Myoshojigawa River.